

## 第108回番組審議委員会議事録

日時：令和6年1月17日（水）13時30分～

場所：市民活動センター/コミュニティ f（富士市吉原2丁目10番20号）

1. 委員総数8名

2. 出席人数7名

3. 出席委員の氏名

稲葉美津江 委員長・赤池英明 副委員長・長橋順 副委員長・佐野智弘 委員・内藤祐樹 委員・  
吉野渉 委員・渡邊朱美 委員

4. 放送事業者出席者名

小沢教司 代表取締役社長

山本茂 放送局長

山本局長：本日はお集りいただき、ありがとうございます。今日は108回目の番組審議となります。皆様よろしくお願ひ致します。では、稲葉委員長から一言よろしくお願ひ致します。

稲葉委員長：今年もよろしくお願ひ致します。年明けに色々大変な事が起きておりました、地震や飛行機事故があり、ありえない事が立て続けに起きております。地元では風が強くなり火事などもふえてええおります。災害もありましたので、皆さん気を付けましょう。本日もよろしくお願ひ致します。

山本局長：ありがとうございます。続いて小沢からお願ひ致します。

小沢社長：今年もよろしくお願ひ致します。お仕事第一優先で結構ですので、番組審議委員として引き続きお願ひ致します。

山本局長：前回審議いただきました、富士市提供のコーナー「SDGsへの始まり」については、HPにも掲載しておりますので、ご覧いただけたらと思います。

今回は毎年行っている年末30日に開催した、「富士山女子駅伝応援番組」をお聴きいただけたらと思います。昨年も審議委員会で審議いただき、毎年申し上げていますが、「富士山女子駅伝」はフジテレビ・テレビ静岡が生中継をしており、弊社で純粋な駅伝中継番組を放送するのは難しく、駅伝を応援する番組だったら放送して良いと許諾をいただいて放送しています。富士山女子駅伝は富士市富士宮市の行政をあげて応援しております。私どもでも応援したいと思い放送しております。これまでの駅伝応援番組は基本的にTV中継を見ながら現地のレポートや応援している人達の声を届けるなどして放送してきました。

昨年は土曜日に午前中生放送している「ファンファンサタデー（以下ファンサタ）」をやっている時間帯でしたので、その「ファンサタ」の特別編としてOAしました。ファンサタのナビゲーターとスポーツナビゲーターとして保科さんに入ってもらいました。地域の紹介を行う番組としてお聞きいただけたらと思います。

## 番組審議

- ・ 審議番組 ラジオエフ年末スペシャル番組  
「富士山女子駅伝2023～副音声的ラジオ!～」
- ・ 放送日時 令和5年12月30日土曜日 10:00～
- ・ 出演 桜木美緒・鈴木彩加・保科紀子
- ・ 番組編成制作方針、説明
- ・ 質疑応答

## 13分後

山本局長：それでは審議をお願い致します。

稲葉委員長：年末特番について審議に入りたいと思います。ご意見お願い致します。いかがでしょうか？

長橋副委員：今年の女子駅伝、テレビはいつも見られないんですが、今聴いた限りだと、映像を見ずに情景など聞き取れて良かった。女性3人で凄く楽しそうだし、そこに保科さんの話が専門的で良かった。リスナーのメッセージもあって良かった。メッセージは生放送ならではの、メール紹介はもっとちりばめた方が良いと感じました。

渡邊委員：去年も聞きました。今年も女子会の中にいるみたいに聴く事ができました。各コースや選手の説明もあったりして良かったと思います。私は毎年 ボランティアで商店街にジャンパーを着て駅伝に関わっているのでテレビ・ラジオ両方とも見たり聴いたり出来ない。今放送を聴いて当時の情景が浮かんで来て良かった。後は、富士宮の人・富士の人とそれぞれ場所がわからないと思うので、お店の名前や交差点の名前など、もっと紹介するなど伝えてあげても良かったと思います。

内藤委員：12月30日なので、お正月に入るお店・年末のハッピーな状態で特番を聴く感じが例年いいなと思っています。毎年駅伝の終盤をラジオで聞くと、これを聴くと年末だなと感じている。ナビゲーターの桜木さんから 吉原商店街で太鼓や段ボールで作った大学の応援看板（サンドイッチ）などについて取材がきていた。ポイントになりそうな所に聞いて回っていたのかな？と、所々聴いていてもちりばめられていて、下調べをしていた内容が聴けて良かった。

赤池副委員：今回初めて聞きました。内容としては楽しく聴けました。今日の資料に駅伝特番は「年末の風物詩」と書いてありますが、この時期にこういった番組があるというのは良いと思いました。他にもこういう風物詩になるような特別番組が出来るアイデアがあれば、違う特別番組もやってもいいのではと感じました。

吉野委員：個人的には凄くおもしろいと感じました。ラジオの一番最初の方で交通規制情報など言っていて、聴いている人に配慮をしていると感じました。実際にランナーとして活躍している方が見所だったり、各コースやテクニカルな情報、実際に競技としてやっていた方しか知らない様な情報がちりばめられて、詳しくない人が聴いているのが多いと思うので、そういった情報が入っていると聴きやすいと感じました。応援番組なので

アットホームな中で応援している感じが聴けて良いと感じました。副音声的ラジオという事で、ラジオとテレビを一緒に見るというより、1個の番組を聴いている様に感じた。

佐野委員：当日年末の掃除をしながらほぼすべて聞いていた。吉原商店街を通過する時に、ほんとキャッキヤして臨場感があってよかった。

僕自身、普段仕事をしている時、交差点やお店の場所や名前を見たり目印にしている。テレビを見ている感覚がして良かった。ラジオは聞き流しながら聞く、副音声的の「的」が改めてタイトルとしても伝わった。非常によかった。今回聴くのは2回目でしたが、それでも臨場感があって、その時の状況がかいまみれて良かった。当たり前ですけど、ナビゲーターが吉原商店街の盛り上がりと富士宮の盛り上がりが違うのは当然で、その場所その場所にレポーターがレポートすると、現場の情景がみられるのではと感じました。

小沢社長：今、佐野さんからお話があった通り、ちょうど事務所で聴いていた時、事務所に電話があり、ところどころで中継してくれというお話もきました。3年ほど前にボランティアの人がラジオエフを聴いていてくれるという話を聴きました。ボランティアさんが何故聴いていると、現在どこを走っているのか、自分もその準備も出来るという事だったそうです。

なるべく途中経過も入れた方が良いが、先ほどお話しした経緯もありますので、今後の課題として考えていきたいと思います。

稲葉委員長：各コースにナビゲーターがいれば面白いと思うが、ちょっと大変なのかなと思いますよね。おっしゃっている気持ちはよく分かります。商店街を選手たちが走った時の、テンションが聴いていて「あー走っているな」と、おみかんを食べてて近くにきたから見に行く。そんな感じで、それはそれで、楽しいと感じました。聴いていると「やっぱり地元なんだなー」と感じました。番組内でも地元の女の子たちが、「●●でさあー」という地元の話し方をしていて、親近感がわく。でも、そういう話の流れで面白い楽しいだけの方向に行ってしまうのかな？と聴いていたら、保科さんがコースや選手の情報話す事で駅伝の応援をしているというのが再認識出来てとても良かった。

山本：毎年の事ですので少しずつ変えながら向上していければと思います。

稲葉委員長：最初の第一回目の特別番組からするととても成長したと感じる。番組審議委員会で色々と言わせていただいたが、それが反映されていて良かった。現場の人たちは大変だったろうなと感じました。

小沢：ご批判いただいて大変良かったと思います。

長橋副委員長：番組審議委員会で毎年聴いていますが、過去にどういう事があったかは知りませんが、今年はより聞きやすく、外の規制された中で見ていると、今どこで走っているのがわかりませんが、ラジオを聴いていると、どこを走っているのかが分かります。今回の番組は本当に良かったと思う。

稲葉委員長：最初は女子トークで始まり、そのまま進んでしまうのかな？と思うと、途中でパッと保科さん説明するなどして、メリハリが良かった。昔はずーっと女子トークだけだった。今回は、聴いていて臨場感が伝わって来る内容だと感じた。

ほか こういうこともしては。とかはありますか？

長橋副委員長：昨年の駅伝特番では、もっとリスナーさんからの生のメッセージを読んで欲しいですね。昨年の駅伝特番ではリスナーさんからのメッセージは沢山あったんですか？

山本局長 所々メッセージを読み上げる時間を設けて放送していました。

渡邊委員：リスナーさんからの感想をもっと聞きたいですね。

長橋副委員長：そうですね。

山本局長：リスナーさんの感想や、現場の状況をもっと取り上げて良かったですね。この特別番組は、こちらから呼びかければ、リスナーさんからのメッセージも多く帰って来るので、全国放送でやっている所を補足するという事で、良いと思います。

長橋副委員：もっとメッセージをちりばめてもよかったですね。

山本局長：基本的にこの特番は、毎回同じではなく、その開催曜日の担当が制作放送を行っている。この形が良いのかはわからない部分ではあります。バラエティーの様になったり、情報重視になったりと、毎年ディレクター・ナビゲーターが変わる事によって、聴いている方が良いイメージになるのか、悪いイメージになるのかが様々だと感じております。ナビゲーター、ディレクターを固定して、バラエティー色を強くした方が良いのか、情報を重視した方が良いのか等、まだまだ試行錯誤の段階です。幸い保科さんという詳しい人が入る事によって、彼女が今回も入るか入らないかでは大きく違ったと思いますので、非常に助かっている所ではあります。

渡邊委員：ずっと女子トークより全然しまりますよね。

稲葉委員長：駅伝特番当初は保科さんがまだ入っていなかったんですね。

小沢社長：ここ数年、保科さんが入られています。

稲葉委員長：駅伝特番第一回目の番組審議委員会で、ただ騒いでいるだけだとお話しして、その後保科さんが入られ、自分が走った感想も伝えてくれて、その分番組が成り立っている。その上で回りの女の子が応援している、というスタンスでやっている形が良いのかなと感じました。

山本局長：今回も、個人的にはキャピヤピしているなーと感じていました。

小沢社長：第一回目は騒がしくて、当時放送している時は苦情の電話もかかっていたり、又、個人的にも連絡がありました。そういった意味で今回は改善されていると思いました。

稲葉委員長：今回もお喋りで放送が始まって女子トークになりすぎるかな？という所で保科さんがしっかりと抑えてくれていた。保科さんのアスリートとしての言葉を使ってくれていた。番組としては出来ない事をやらなきゃいけないのが大変ですけど、それが出来てきたのかなと思いました。

山本局長：毎年ディレクターが違うんですが、ディレクターの意図というの也有ります。町の紹介に時間をさく人やストックに駅伝にフォーカスするディレクターもいるので、ばらつきはありますが、その都度特色を加えながら試行錯誤したいと思う。

稲葉委員長：良いと思います。今年と来年の雰囲気が変わって良い。

小沢社長：皆さんの意見を参考にさせていただいています。

稲葉委員長：一番最初を聴いた人間としては随分成長している。私たちの意見を聞いてやってくださっていると思っています。私たちの意見も反映されていてうれしく思います。

小沢社長：今年の駅伝は月曜日ですね。

稲葉委員長：今年もその担当者はドキドキしていますでしょうね。

番組をつくる人達が楽しんでやってもらえると良いですね。その楽しさが番組に反映されると思います。

小沢社長：インターネットでも聴けるので是非皆さん聞いていただけたらと思います。

山本局長：今回、応援している人の数、すごい人数でしたね。私は富士宮浅間大社さんの所でみていました。天気もよかった。

佐野委員：私の店の前も交通規制していて年末という事もあり、お客さんは全くいなかった。ただ、コースの部分は例年の倍以上の見学者がいた。

小沢社長：吉原商店街でもラジオエフを流していただいて。

稲葉委員長：そういうのがあると応援している人達が、選手がどこを走っているか聴けてよいですね。

ほかに無いようでしたら今日はこれで終わりにさせていただきます。

小沢社長：本日はありがとうございました。

次回は3月13日水曜日に開催いたします。

よろしくお願ひ致します。

議事録の公表：令和6年2月1日 自社ホームページにて公表